

Windows Server 2008 R2 で eValue NS を使用する際の注意事項

Windows Server 2008 R2 で eValue NS を使用する場合には、以下の 3 点に注意してください。

1. Exchange Server のサポートについて
2. .NET Framework 3.5 のインストール
3. インターネットインフォメーションサービスの仮想ディレクトリの設定

1. Exchange Server のサポートについて

Exchange Server 2003 は、Windows Server 2008 R2 をサポート対象としていません。

<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2008/r2/supported-applications.msp>

Exchange Server 2003 ご利用の場合、eValue NS サーバーの OS を Windows Server 2008 R2 とするには Exchange Server とは別のサーバーにする必要があります。

Exchange Server 2007 は SP3 にて、Windows Server 2008 R2 に対応しました。



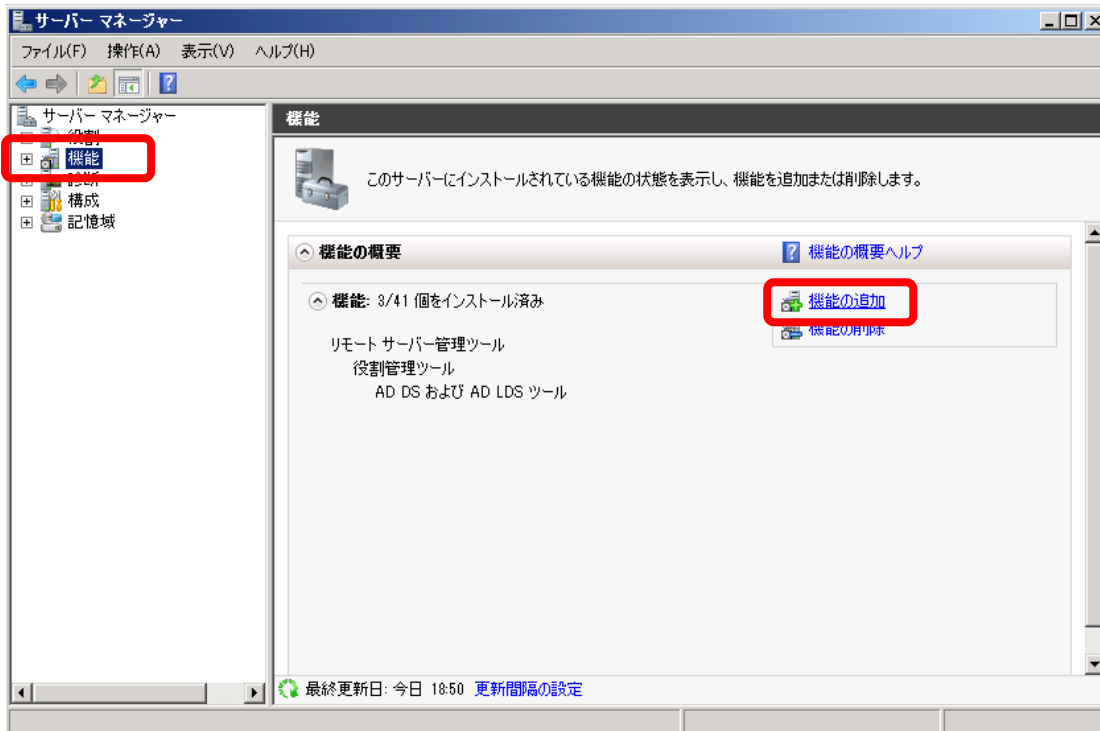
Windows Server 2008 R2 に Exchange Server 2007 SP3 をインストールする前にマイクロソフト社の KB982720 の Hotfix を適用する必要があります。これは、eValue NS スケジューラ/コミュニケーションが利用する Exchange の API (CDOEX) を有効にするために、必要な作業です。詳しくは、以下の FAQ を参照してください。

<http://www.evalue.jp/support5/faq/nssc2010122001.asp>

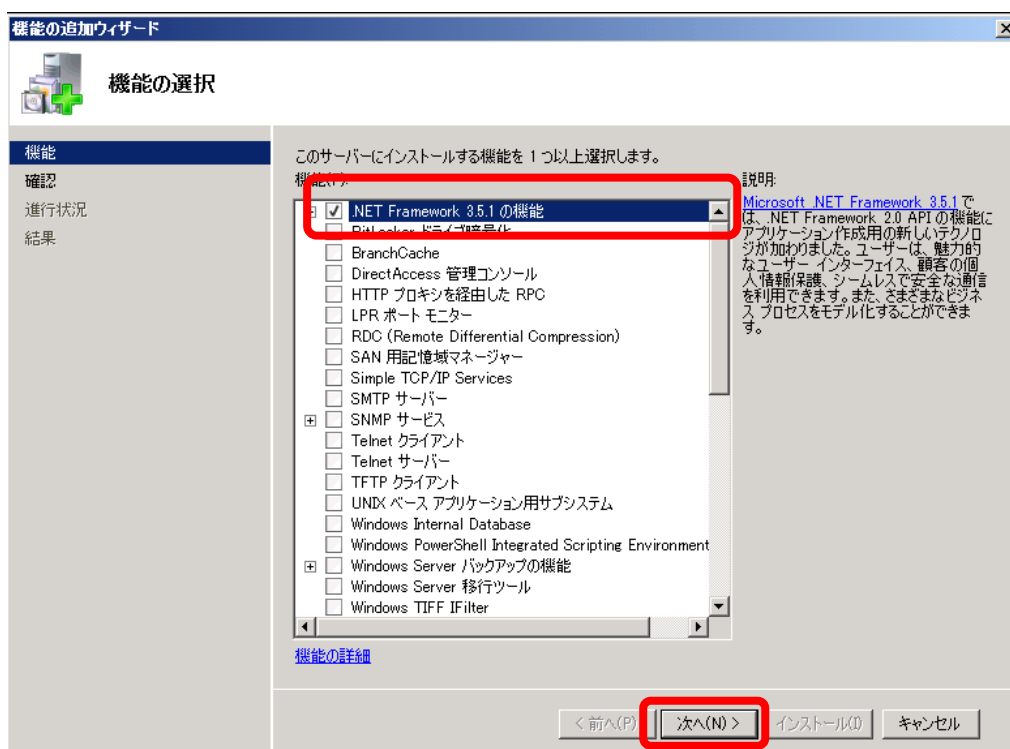
2. .NET Framework 3.5 のインストール

.NET Framework 3.5 のインストールは、パッケージ同梱のインストーラではインストールできません。Windows Server 2008 R2 の[機能の追加]にて、.NET Framework 3.5.1 を追加する必要があります。以下の手順に沿って、追加してください。

- ① [スタート]—[管理ツール]—[サーバーマネージャ]を開きます。
- ② 左のペインで機能をクリックし、右のペインにて「機能の追加」をクリックします。



- ③ [.NET Framework 3.5.1 の機能]を選択し、「次へ」を押し、追加できたら完了です。



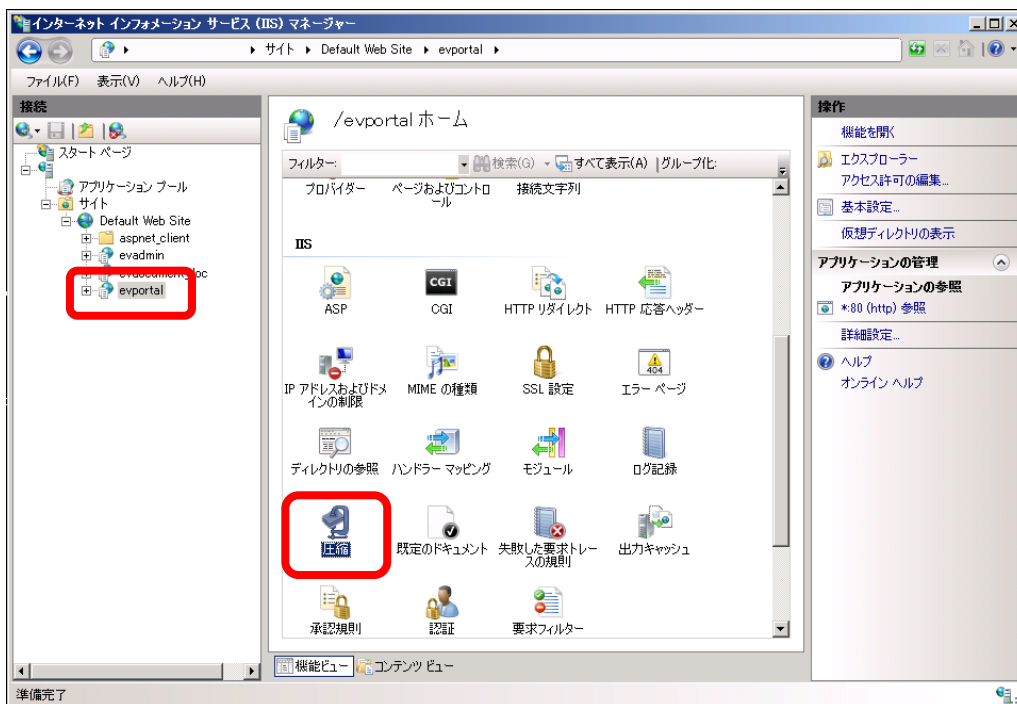
3. インターネットインフォメーションサービスの仮想ディレクトリの設定

eValue NS をインストール後、インターネットインフォメーションサービスの設定を変更する必要があります。

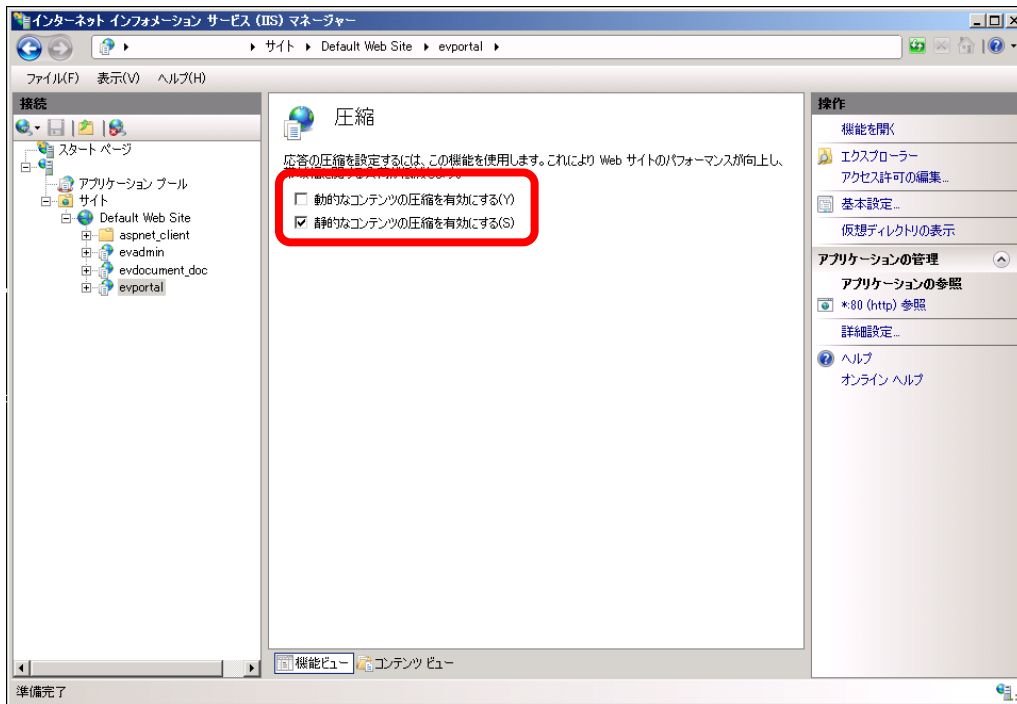


本設定を行う、「evportal」および「evadmin」は、eValue NS のインストール時に既定の値でインストールした場合の仮想ディレクトリ名です。インストール時に任意の名前に変更している場合は、変更後の名前の仮想ディレクトリを選択し設定してください。

- ① [スタート]—[管理ツール]—[インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]を開きます。
- ② 左のペインにて、[サーバー名] —[サイト]—[Default Web Site]—[evportal]をクリックし、右ペインにて「圧縮」を選択します。



- ③ 「動的なコンテンツの圧縮を有効にする(Y)」のチェックを外します。



- ④ ②、③と同じ作業を仮想ディレクトリ「evadmin」でも行います。

以上

※ 「SMILE」「eValue」「EasyPortal」「Visual Finder」「Advance-Flow」は、株式会社OSKの登録商標です。
※ その他、記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。